

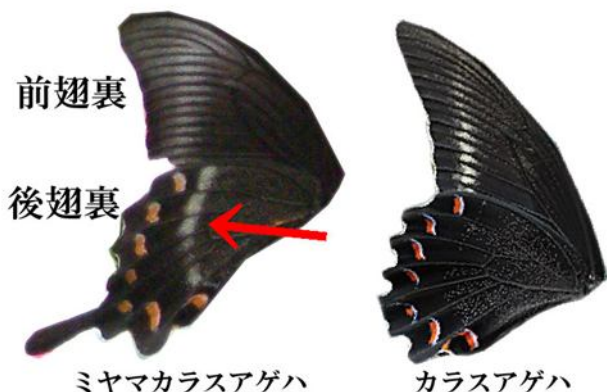
## 「ミヤマカラスアゲハ」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

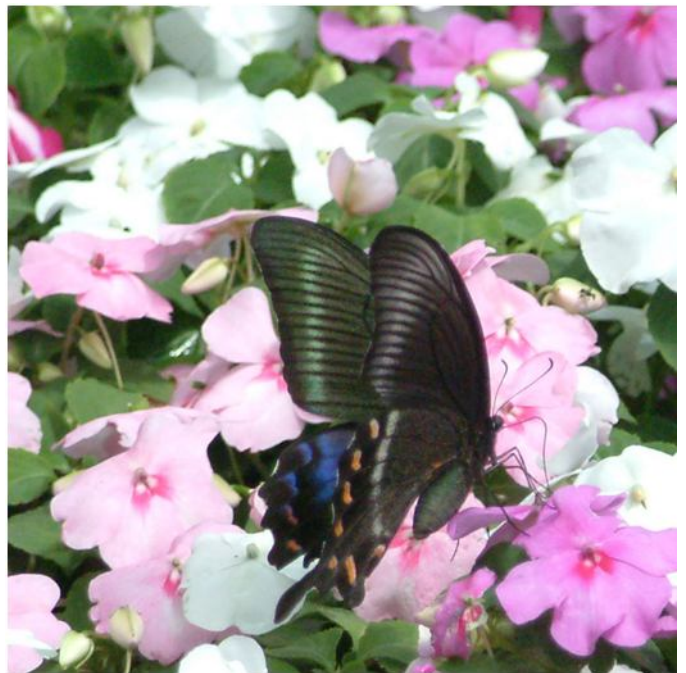
北軽井沢の森のはずれ、花の植え込みに黒いチョウがとまっていた。浅間高原には小型のチョウが多いが、これは珍しく大きなチョウである。ガは休んでいる時(静止姿勢)では、翅の表側がよく見える。しかしチョウの場合、休んでいる時や、蜜を吸っている時は、翅を閉じていることが多いので、見えているのは翅の裏側ということになる。このチョウも、なかなか羽の表を見せない。時々見える表側に、鮮やかな蛍光色の青い帯が見えた。ミヤマカラスアゲハのようだ。



ミヤマカラスアゲハ(深山鳥揚羽)は、カラスアゲハと非常によく似ている。見分けのポイントは、後翅(尻側の翅)の裏にある、弓型の白い帯である。カラスアゲハにはこれがない。しかし、ミヤマカラスアゲハにも、この白帯が薄い個体もあって、同定を難しくしている。今回のものには、はっきりした帯がある。



「カラスアゲハとミヤマカラスアゲハの見分け方」



ミヤマ(深山)の名を冠してはいるが、純粋な高山蝶というわけではなく、低山や里山にも見られる。ただ北軽井沢では、普通のカラスアゲハは見かけない。このチョウの最大の魅力は、翅の表の鮮やかな青い帯である。ずいぶん一生懸命に撮影を試みたが、なかなかいい写真が撮れない。やっと撮れたのが、下の1枚。どうも、チョウの写真は、花やキノコの写真とは勝手がちがう。もっと研究が必要だと思った。



「ミヤマカラスアゲハ」 *Papilio maackii* 北軽井沢